

此事を之に見て  
 然るのみならず  
 個人に於ても亦  
 宗教徒の偽善は  
 非宗教徒の偽善  
 よりも悪きもの  
 あり。乙は唯人の  
 欺き人を問する  
 のみなり。甲は則ち  
 神を欺くを敢て  
 しむるに神を欺  
 けしむるは唯人  
 を欺くに止りて  
 神を欺くに止り  
 ざるは實に神を  
 欺くは唯人を欺  
 くるに止りて神を  
 欺くに止りざる

は、思想運用を多少能くし得るに至るに隨ひ、懷疑の窩中  
 に立つを自覺し、遑遑焉として自ら適歸する所以を知ら  
 ず、況て教育者、彼等自個は最も屢、此境地に在るもの、教師  
 既に口是腹非して説教す、生徒如何ぞ眞面目なるを得可  
 けむや。歐西人士が他邦人に向うて自個を誇稱するに、漸  
 く耶蘇教民の稱を避けて文明人士を謂ふに至れるは、既  
 に此事實の端を露すもの、夫れ眞面目ならざる國民は即  
 ち偽善の國民なり、宗教は至高究竟の示命と稱す、而して  
 尙口是腹非を妨げずとせば、天下何を爲してか憚るを要  
 せむ。歐西社會が蕩蕩として偽善の慘境に墮落するは、實  
 に此大弊竇より來る。歐西の社會は、今や益、此不安定均齊  
 の窮境を趁ひつつあり。

此は伯林のシウイ  
 にて、三級上の生徒  
 が、困みて暗誦の時  
 古あるに、一八九年  
 親が、九九年六月著

第三、近時歐洲の泰平は、各國社會統制の效果なり、即ち  
 内面的秩序の整備より來る者にして、外部に對して安定  
 均齊を得たるが爲にせるものに非ず、對外關係は、各國の  
 間、正に是れ虎視眈眈の實狀なり、之が爲に、各國は、教化上、  
 對抗自持の設備を爲すに懈らず、即ち外敵に對して國內  
 の統一一致を計らむが爲に、愛國心の養成に急なり。然る  
 に、此愛國心の養成と、耶蘇教の教誨とは、或は全く相背離  
 し、或は直に相衝突す。汝の敵を愛せよ、若くは汝の左頬を  
 打つ者あらば更に汝の右頬をも打たしめよといふが如  
 きは、愛國的教化主義と直に相衝突する者の例、猶太の歴  
 史、豫言者の名號の暗誦の如きは、其全く相背離する者の  
 例なり。斯くて耶蘇教の桎梏は、國家的思想の養成と正に

相背反するの實狀、益、明了となりつつあり。

第四、此勢を助長しつつある者は、歐西諸國の耶蘇教國以外の諸國に對する近來の政策是なり。抑、宗教の常癖として、異宗人に對する嫉惡の太甚其極に達す。近時歐人の各國內及歐洲内に於ける不穩を外轉するの政策を取るの頻頻たると、東洋の局面が彼等の前に新に開かれたるとより、歐人の非耶蘇教國との交渉益、頻繁となるや、彼等の野心的首長は、直に宗教の此弱點を利用して、益、心にもなき耶蘇教呼はりを爲す、而も斯くて耶蘇教に負ふ所を加ふるべき。歐洲各國相互に對する自國教育方針の基礎を危うするに至る所以を悟らず、笑ふ可き自殺と謂ふ可し。抑、野心的首長の耶蘇教呼はりに盲從雷同して、以て社

二四

凡そ歐洲近時社會の弱點擧げの事項について、近時學者の著述多し。  
Novicow: Gaspillage des sociétés modernes.  
Georg Dahlen: Aufzeichnungen über die europäische Gesellschaft, 1885.  
Max Nordau: Parnoxes sociologiques, 1901. tr. p. Dietrich.

會の對外的罪惡を冒し、乃ち耶蘇教其者の教誨に背反するの陋態は、亦耶蘇教が宗教的桎梏を國民思想の開展に加ふるが爲なること、識者の夙に看破せる所なり。

以上四項は、人心の絶對的解除を得ざるより來る效果なり、弊竇なり。耶蘇教が歐西社會に於ける專制的心靈的示命の源となり、其勢力の餘りに強かりしが爲に、希臘羅馬等心靈的惠澤の源泉も、充分其好果を收むる能はず。乃ち以て成立に至れる歐西文明本來の短所は、今更に一瞥を要す。

第一、徳教の單純なるは明瞭に歐西文明の短所なり。太古草昧の世、徳教亦單純にして事足るも、世の漸次開展するや、道德の實質亦固より開展せざる可からず、然るに宗



偶、非、信、狂、熱、を、以、  
て、非、非、凡、凡、の、形、式、に、  
非、非、凡、凡、の、偏、實、に、  
は、非、非、凡、凡、の、比、比、  
の、免、れ、は、記、し、  
り、者、を、い、も、い、や、  
の、傳、記、さ、る、比、比、  
の、免、れ、は、記、し、  
り、者、を、い、も、い、や、

第四、人心の内的修養を闕如すること、殊に歐西文明の一大短所なりとす。耶蘇教は他力的宗教なり、超絶的宗教なり、現實について考究照見を須めず、自個について省察力行を要せず、其神人の契縁や、一に神秘不可思議の默示感應に由る、是故に其信仰の實地の進捗に於ける効果は、唯其單簡なる教條の實行、其低卑なる戒律の恪守を極致とし、毫も其以上に自覺的修養の効果を生ずることなし。乃ち歐西民衆が人間品格の極致とする所は、此教信仰の以上に出でず、是に於いて依地主義となり、法治主義となり、慣習準用と爲り、其内的修養は一も加ふる所あらず、是に於いて一旦其教國土の外に出づる、其法治社會の外に出づる、其慣習世間の外に出づる、内的修養を缺如する蠻

民の舉動、卑汚、低墮、殆ど底止する所なきは、歐人の凡衆、就中其所謂信教者が歐土以外に出で、歐土以外の人衆と接觸するの機會の頻繁を加ふるに隨うて、益、頻繁に識者の懇願を買ふの事實なるに非ずや。夫れ道德の要諦は自制自覺、自立、自由の進歩に在ること、歐西の識者の亦皆其說を一にする所、文明の進歩の道德の進歩に在ること亦碩學の一致する所たれば、歐西民衆這般の缺點が、如何に所謂歐西文明の價值を損するかは、多言を須たずして明なる可し。

這般の大綱より來る所にして、細目の弊事短所を擧げば、僕を更ふるも悉す可きにあらず、而して要は則ち斯の如し。

此故に歐西の文明なる者、其價值亦知る可きのみ。歐西社會の耶蘇教に於けるは、眞に是れ惡因縁と謂ふ可きもの、其未だ開けざるに當りてや、獍暴、獅、虎、狼と相闘ひ、薄瘠なる土地に棲息し、人人相争ふこと亦極めて劇烈、慘酷なる陋俗が、僅に教化の端を開きて社會的體制を成すに至れるは、蓋し宗教と婦人との恩賚なり。故に其社會體制の最も大成せるは、十字軍を中心としての封建武士の時代に在り、這般因果の事蹟、當時昭昭として察す可きもの多かりき。夫の自由主義と稱する者の興隆も、希臘羅馬の先例に乘じ、此本來の劇烈なる社會民族の性質の發動せるもの、歐西帝王の社會に於ける要求權の甚だ大ならざるは、亦其力にて成れる統制に非ずして、實に宗教及婦人

によりて成れる統制たるが爲なり、乃ち自由主義の發展し易かりしは亦實に此に由る。歐洲の社會學者が民人の相争を以て社會の本始なりと普遍的斷定を輕易にするは、觀察の狹隘に坐する當然の結果にして、吾人が局外より歐洲の社會を考察する、所謂過を觀て斯に仁を知るの感なくんばあらず。國際關係に於ける現時の所謂勢なる者、此獍猛民族の跋扈に逢ひて、世界の他の民族の之に抵抗するの實狀に外ならず、民族の先覺者、須らく一雙の活眼を開きて民心の向ふ所を定示せざる可けむや。

歐西の今日は、其社會の發達に由りて、此好因縁が轉して惡因縁の實を現しつつあるの社會なり、歐西文明の價値は、惡因縁的文明の一語、以て之を斷ずるに足る。

## 第五節 東洋文明の價值

日本支那及印度の文明は、各其特質を有して發達したり。而も之を現今の實勢に見るに、印度文明は特立して一個の社會文明を形成するの資格を缺く、是れ其純然超絶的なるが爲にして、亦其必ず他の現實的性質を具有する社會及其文明と結合するを要したる所以、乃ち印度文明今日の社會的存在は、唯支那及日本に於いてす。日本文明と支那文明との關係も、亦稍之に近き者あり。支那社會及其特有なる文明の大成は實に周代に在り、爾來其思想生活は、較、開展を加へたる者なきに非ざるも、社會現實の進歩の之に隨伴せるあるに非ず、社會現實の狀態は、唯幾た

びとなく同一狀態を反復して、統合と分化との交迭を現せるのみ、乃ち支那文明が、大に其本來の性質に協ひて、現實的效果を奏し、社會現實の發達を促したるは、實に日本社會を介し、此に由りてせるに在りとす。故に今日に在りて、東洋文明の精華は蒐めて日本社會に在りと謂ふ可く、其淵源及性質に於いて各種の差違あるに拘らず、吾人は今歐西文明に對して、東洋文明といふ包括せる一語の下に、其價値の品評を試むるを適當とす。

東洋文明は歐西文明と正に其長短得失を相反す。歐西文明に反して、東洋文明の最短所は、自然科學の發達なく、乃ち産業の開展を成さざりしに存す。今聊か仔細に之を觀察す可し。

印度の社會には、其最大長所たりし形而上的考察の結  
果に成れる精緻なる宇宙觀あり、而も其造詣や亦唯哲學  
思想の體系を充さむとするに止まりて、利用厚生の道を  
講ずるが如きは其夢想だもせざる所、産業開展は毫も印  
度人民の發達せる知能の援助を期す可からざりき。

支那に至りては、印度と正反對に、其文明や其社會や極  
めて現實的實用的なり、故に支那の上代、即ち其大成時代  
に至るに於いて、科學的實用の發達、産業の開展は頗る驚  
く可き者ありき、實に當時の全世界を顧れば、最大最進の  
文明社會は、實に周に於いて之を見る可かりしなり。然る  
に爾來其社會の徑行は、漸次種種の變革に逢ひ、而も漸く  
衰運の域に向ひ、隋唐の統合を以てすと雖も、漸く其文明

二九  
俱全論の記す所の如  
き、其好標本に供す  
可し。

三〇  
前章之を踏蹤して詳  
なり。

特有の長所たる、思想、實行、兩者の合一を脱離して、思想の  
發達は現實的生活を率ゐるを得ず、乃ち思想は空虚に流  
れ、實地は進歩を缺き、而して社會文明の發達は太た觀る  
に足る者なきを致せり。是故に支那文明、本來の性質は、科  
學の發達及産業の進歩を誘致す可き者なりと雖も、周の  
大成以後は、其社會一般の衰運と共に、爾來新に見る可き  
の發達を缺きて以て今日に至れる者とす。其之を致せる  
原由は、近くは科擧の制なり、遠くは其地勢及歴史に坐せ  
る其社會の規定なり。科擧の制は、専ら文章經術を以て中  
流以上國運の進捗に與る士人の資格と爲すもの、而も所  
謂文章經術や、僅に先王天下を平にする所以の一斑を得  
るに止まり、其餘は悉く空文浮詞を以て之を填む、乃ち世

運の進歩改良に向うては殆ど留心する所なし。其遠因や乃ち支那社會固有の規定に存す。夫れ分化の勢を成し、國內小康をも得る能はざる時期に在りては、文明の發達得て望む可からず。而も尙戰國の時代の如きは、頗る諸般の思想、對外の經綸并に實行の發達あり、乃ち支那に於ける現實的文明進運の休止は最も其泰平の時に於いて之を見る、是れ實に太だ奇とすべきに似たるも、實は其版圖の廣大と、分化の頻繁なる歴史との爲のみ、其外敵を有せざるや、統治者の患とする所は常に内國秩序の維持に存して對外競争に在らず、殊に外邦の文明は停止せる支那文明にも、如かざること啻に數等のみならず、故に民を愚にして社會の發達を殺ぎ、爲に其對外競争力を減殺するは、

毫も統治者の意とする所に非ず、以て秩序を苟媮す可くんば民を愚にするは是れ彼等の最上政策とせる所なり。是故に支那に於ける周以後の社會は、治と亂と、共に産業の發達及科學的知識の開展を防碍せるもの、斯の如くにして秩序遂に復、崩れ、分化復起り、繼いて起る所の統合者は、更に之に懲りて以て其迷を深くし、斯くて支那の社會は、一分化、一統合を経來る毎に、益、統治上の迷誤を深くするに至れるなり。されば支那社會の改革は左の兩者の孰れか一若くは兩存を持ちて行はるべし、第一は對外關係の劇甚を加ふる事是なり、第二は内國地勢の變換なり、地勢の變換は交通組織の一新に由りて成る。此兩者は直に支那の病根に鍼する者、而も第十九世紀の終より、稍稍と



して支那識者の意識に上る、是れ支那が正に革進の運に向へる明證なり。唯夫れ歴史の規定は、二千年來馴致せる所、今尙牢として容易に抜く可からず、劇烈なる革命か、長久なる年所か、二者其一を経む後ならずは、支那の完全なる革進は達せられ難からむか。

若し夫れ支那文明の本性が、最も科學及産業の發達を促す者なりしに拘らず、其斯く半途の阻遏を蒙れる所以を顧るや、後人をして一層痛惜に堪へざらしむ。更に轉じて日本を顧れば、支那文明の輸入は、其初、社會組織尙未だ大に整はず、大化に於いて始めて小成し、而して支那文明の此國に於ける實用は漸く其所を得るに至り、爾後百餘年の間、實に社會文明の實現と進歩とを見たりしも、既に

して亦漸く衰運に向ひ、而して分化漸く起り、遂に封建一統の世を現出す。封建の時代に於いて科學及産業の發達は固より期す可からず、蓋し封建は産業組織の大なる發達を許さざればなり。加ふるに中ころ戰國の時代に馴致し、國運の進歩は一時全く地に委し、織豊を經、徳川の統合に至り、封建組織更に大に整ふに迫ひて、各藩提封の内に於いて、産業は充分なる發達を遂ぐるに至れり。唯其狹小なる日本の版圖に在りて、更に細分小裂の裏に於ける發達なれば、大に見るに足る者あるを得ざりしは其所なり。昌平日久しく、徳川幕府并に雄藩の下に在りて、學問技藝の發達の萌芽は漸く大に現ると雖も、而も亦歴史の規定は頗る強大にして、容易に新なる價値の認定を自然科學

三一  
微種の發明、伊能の  
 日本地理の研究の如  
 き、これなり。

的事項に添ふること能はず、其間二三の重要なる發明ありしも、竟に未だ全體としての進歩を效果するに至らず、遂に以て封建の終期に至れり。且徳川幕府は、亦漸く支那の爲政治家の如く、内國の秩序を重んずるに偏して、乃ち民を愚にするをも辭せざりき。唯徳川幕府固有の弱點や、日本社會に特有なる族制の必然後件として、此制に協合する統治者としての要求權は毫も之を有せず、それが實に京都朝廷に存する事は遂に掩昧に附す可からざりしが爲に、支那に於けるが如くに、此愚民政策の絶對なる厲行を爲し得ざりしなり。獨り其鎖國政策は、交通組織の一新に由りて世界地理の變換を見るまでは、日本社會の天然的規定に隨ひ、決然たる厲行を遂げ得たり。

斯の如く明治維新に至るまで、東洋文明の完成せる代表社會たる我國に於いて、乃至東洋全局面に於いて、自然科學の發達及其應用に待つ所の産業の開展は、竟に之を見るに得ざりしなり。國土安穩なるときは民心満足を得るも、是れ唯消極的満足にして、産業に對する妨害の除去を喜ぶに止り、其改良發達より來る積極的希望の充足は決して之を見るを得ず。且對外關係に於いて、一は人爲的に、他は自然的に、其練習の機會に乏しかりし東洋社會、一たび較發達せる歐西國際關係の勢力の波反に逢ふや、茲に一大變遷の機運を致せり。

不幸にして、此西來の國際關係の波動は、其性質に於いて幼稚、粗野、勝敗の數を以て第一義と爲し、富強を以て究

三一  
一は日本、他は支那。

竟の要諦と爲せり、乃ち此點に於ける劣者として、東洋諸邦は勢力競はず、拖いて諸般の社會事項に於いても、亦皆劣者の地位に立つが如く然り。乃ち世の膽、小にして視、近き者は、爲に其操持を失ふ。然も社會の事象は常に進歩し、將た大體に於いて進歩の趨向あるは蔽ふ可からざる眞理たり、事實なり、是に於いて國際關係も亦今や一小進轉を爲さむとし、而して東洋文明の長所亦其從來の短所より蔽はるるを免れむとするに至れり。

何をか東洋文明の長所と謂ふ。今其最も主要なる者を約して三項と爲す。

第一、道心の發達。茲に道心と目する、分析的論議を避けて、東洋本來の意味に於ける道心として之を解せば、多

その中心

三三 西洋に於いては、道徳教  
 教を以て其法を去りて、  
 地へ一儀を以て、  
 習の部を以て、  
 故に其部を以て、  
 心に東洋の道心辭を以て、  
 も徒勞をせむとす。且徳  
 本末學史を以て、  
 希羅哲學を學するの弊  
 難と學史を以て、  
 國語と學史を以て、  
 差隔を以て、  
 自然の近

三四 道徳心の發達の時代  
 孔子の時代、  
 徳文の時代、  
 古に在りて、  
 りる所を以て、  
 徴なる道徳の時代に、  
 既にた

言を要せずして明了すべし。抑、道徳心が東洋に於いて草創の社會より既に已に發達し、殊にその日本に於いて、藹然たる發達を見たるは、即ち其特殊なる社會組織の性質に本づき、又翻りて後世社會組織の發達の爲に規定となる者にして、家族より成る所の社會は、人類の自然の性情に率うて此道心を醗成し、且社會關係に於いて亦他に對する搏攘爭奪の要なかりしが爲に、此醗成せる道心の傷害を蒙る危虞もなく、以て充分に社會生活の根諦を供せり。此社會組織の根諦は、乃ち名づけて之を道心と謂ふ。支那に在りても、亦其社會發達の當初、社會の規定の好都合なりしが爲に、稍此方面に向へる者あり而も寧ろ徳教の發達を促し、教を須たずして圓滿に道心の發達するは、

實に日本に於いて著く、而して其因縁の、實に特殊なる族制組織の社會たりし社會規定に存するは、最も牢記を要する所とす。日本民衆が、如何なる擾亂の時に於けるも、將た今日に至りても、我皇室に奉對する道心の、理窟若くは法令を待たずして、一般臣民に具はり居るは、即ち其明なる一例を供す。而して此道心ありしが爲に、全然宗教の絶對的必要を見ざりしは、亦特に牢記を要す。

三五  
道心を道徳心に、徳教を道徳教に見る亦佳。

第二、徳教三五の發達。徳教は道德の教條なり。支那の社會は、地味地勢の利便夙に開け、民衆廣大なる社會に棲息し、人口も亦隨うて繁殖せしが爲に、傑出の士出でて、其性に率ひ、情に基づき、最も其社會組織に循由して、教條を立つるの必要、夙に其運を成せり。五倫三六の教の大成せる、即ち是

三七  
父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信、是非之端也。

三七  
開徳之心仁之端也、羞惡之心義之端也、辭讓之心禮之端也、是非之心智之端也。

なり。是れ毫も超絶的教條に非ず、唯日常循行すべく遵守すべき事項について其大本を立せる者。而して之を行ふの基本として乃ち四端の説あり三七、是に於いて内的修養の基乃ち立つ。日本や、亦社會の廣大を加ふるに及びて之を取所ありしも、其必要として大に行はれしは唯徳川時代に至りて之有るのみ、是れ擾亂の世を経て一大釐修を施すの要ありし時代なればなり。其斯く容易に行はれしは、彼我共に規定に於いて大體極めて相近きが爲なり、我道心と彼の徳教との極めて相近きが爲なり。而も亦猶多少の變態を以てせしは事實とす。斯くして立せる所の教條、毫も超絶的假説に依頼するの要を見ざるは、實に東洋文明の特長に屬す。

三八  
日本政記卷二、頼山陽の論之を得たり。

第三、宗教の現實的調和。印度の社會は全く日本支那と社會の性質を異にし、茲に宗教は生れたり、而して他二國の社會の衰勢に乗じて、多數の下流社會に浸染せり。印度の宗教が、彼が如く自由なる態度を以て、彼が如く深遠なる哲理を以て、猶且永く中流以上の頭腦を占有するこゝと能はざりしは、兩國の社會が、如何に己に足りて外に待つことなきの造詣に在りしかを察すべく、中世の初に於ける歐西社會と基督教との關係とは、如何に全く其選を異にせるかを看る可きなり。此高尚なる宗教は、社會の衰運に乗じて東洋の全面に弘布せるも、又人心腐敗の病的現象が時に之を藉りて爆發せることありしも、久しからずして宗教は亦皆現實社會と相調和し、宗教は社會性の

三九  
支那の如き、社會は  
永く其衰運を遂げる  
國に在りては、宗  
教の勢力は決して弱  
し、社會に反ばずして  
果な成さざり

制御の下に立ち、宗教より國家社會の統制上に惡影響を及ぼすが如きは斷じて之なかりし所とす。東西宗教の統制的勢力に於ける大なる區別は、實は大切なる事項にして、日本が宗教の弊を受くることなきは、實に今日實理的進歩の實現に於いて大なる利便を有する者、若し夫れ之が弊を受くるあるか、此實現の爲に大なる障礙を存するに了るべし。東洋文明に於ける宗教の現實的調和は、新世紀開明の氣運が大に東洋に向うて好生面好希望を開きつつありと謂ふ所以の根基なり。

這般三項の根本的長所の爲に、我東洋、就中既に社會組織の根本的解釋を了りて、今や正に大成時代に進める我日本は、世界文明の進捗に於ける偉大なる參贊の事功に

向ふや、教化、政治、國際關係一切の方面に於いて、先進者として提擲の勞を辭せざる可き資格を具備す。乃ち經濟上に於ける社會本位主義、政治上に於ける立憲主義、教化上に於ける獨立主義、國際上に於ける人道主義、文明上に於ける參贊主義の如き、最も高尚偉大なる大理想は、道德の根據の上に立ち、實理の基礎の上に立てる、日本社會の、宇内に率先して提唱すべく、亦爲し能ふ所の者なりとす。東洋文明の得失の大綱は正に斯の如し、志有る者更に細密に考察する所あるを要す。

### 第六節 結論

上來論述する所に由りて、社會進化の究竟たり、凡百社

會的行爲の理想たる、文明について、理論的及事實的批判は略明了し、乃ち所謂文明なる語の曖昧多義も茲に全く除去せられたる者とす。東洋古來教化の眞義、歐西の進歩的文明觀、及現代に於ける吾人の文明に對する見解は、茲に完全なる樹立を得たりと謂ふ可し。

夫れ文明は天啓に非ずして人力の到達なり。豫言者と謂ひ聖人と謂ふ所の者、時に出でて之が翹楚と爲る。彼や實に一世の先覺、能く一般世人の大に有して而も未だ感知せざる精神的社會的希望を覺知し、偉大なる力を以て之が社會的實現に向うて前進す、社會の人衆は、之に頼りて始めて自個の希望を覺り、乃ち翕然として向ふ所を知り、協心戮力、遂に社會の進歩を濟す。古來一世に卓出する

の士、或は教法に、或は政治に、或は文學に、又或は科學産業に、偉大なる闡明創造を成して以て一代の風潮を揮擢す、是れ皆豫言者の流なりと雖も、而も豫言者の態度や世運の進歩と共に變遷す、拘拘の徒、之を端倪するを得ず、様に仍りて胡蘆を描き、株を守りて兔を待つ、其世運に害あること亦既に久し。抑、豫言者は社會の一員なり、社會の主腦なり、聖人は天地の心なりと謂ふ、永く眞ならずとせむや、乃ち自今其態度如何の研究に於いて幾分の資を供するあるを得ば、吾が此講究の目的や、酬いられたりとせむ、之を結語と爲す。

# 名目索引

〔25は第一卷二五頁を示す。字音は現時の慣行を取る〕

愛二 366	移動率二 250	印度の社會四 598	エネルギイニ 135 變態の理
愛國心二 297 四 506	意志の開展四 102	印度思潮一 244	論一 295 不滅の理論一 296 變
愛國的教化主義四 587	意識體一 33	氏三 44	衰の理論一 297
愛新主義四 239	意識的淘汰の理法二 178 四 76	宇宙攻取四 93	演繹一 191 法一 151 的理法二 102
惡因緣四 594	意識說三 363	運營一 32	厭世主義四 197
亞西利亞四 492	依他主義四 171	運河交通三 295	才
亞刺比亞四 493	一般方法一 151	運動裝置の開展四 98	歐西文明四 576
暗示三 374 的內的張力三 388	一種論及多種論三 26	運動上の自然淘汰二 170	歐西人口の沿革四 518
イ	一神教の單複三 459	運命的説明一 118	歐力東漸時代四 535
	一夫一婦關係三 98	工	力
	因果律二 14 19	築養裝置の開展四 99	海上交通三 294
	因果の關係二 88	易理一 234 四 11	海陸關係四 367
	因中有果說二 19	埃及四 492	海商の自由一 273
	因中無果說二 19		
	因縁の關係二 88		
家三 42			
遺傳二 212 三 356 360 的理法二 174			
遺言三 314			

階級三196 205 及組合四391 主義四210 問題四570

開明的内外婚三93

開發主義四289

覺二7

格言化三370

革命問題四574

確定的四185

客觀的、不足四282 歷史二205

河川交通三294

加速度的理法二164 四54

家族三42 體制三42 80 制度二346 的組織四124 單位說三140 社會との關係三134

家庭、經營三146 的模倣三386

家督三315

家風二374

神三442 的類別三454

加答互四495

感覺、知覺二52 的理法二96

階級三196 205 及組合四391 主義四210 問題四570

開明的内外婚三93

開發主義四289

覺二7

格言化三370

革命問題四574

確定的四185

客觀的、不足四282 歷史二205

河川交通三294

加速度的理法二164 四54

家族三42 體制三42 80 制度二346 的組織四124 單位說三140 社會との關係三134

家庭、經營三146 的模倣三386

家督三315

家風二374

神三442 的類別三454

加答互四495

感覺、知覺二52 的理法二96

的直覺一163

威化三409 院三411 力(文明の)四400

監獄三413

干涉主義四240

間接發達二430

我二7

學問一35 二108 的示命一57

の目的一56 的體統一70 的歷史一198 的問題一285 總論一129 史論一131 體系二130 原論一130 神聖主義一63 無用主義一63

學理二108 四159 的種類二110 的發見一152 的應用一152

學理的平和主義三230

學術三476 四384 的職能三479 技藝の播種四580

學制問題三402

顏面角四344

究竟原理二108

究竟理想二58

急進主義四231

救濟主義三492

九家一242

朽滅(文明の)四415

機關一23

鞠養三33

氣候二227 四371

記述的方法一166

記述的社會學一103

機制體一22

機制論四11

機制的變動四37

既成説明の理法二95

貴族三197 202

歸納一191 法一151 的理法二104

規範二57 的研究一101

教育三332 四385 原論一139 制度四406

教化三169 325 333 四319 的義解三331 335 的職能三336 的基礎三352 機關三192 制度二350 性三352

教化國三173

教授三398

教政三500 517

教導三167 393

教法改革四506

鞏固二396

強國主義四228

共產主義四279

競爭二269 432 438

共棲群聚三34

協同生活一10 二218 335

協同關係三106

協力二339

強力統制三521

虛無主義一293

共和國篇一258

基督教四495 社會學一108 社會主義一265 292 的精神主義一358

近接二361

禁欲主義二73

儀式三424 四386 388 的淵源三426

の職能三433 的繁簡三436 行動の意識三425

偽四海主義四302

偽善四586

儀表的價值三338

義務及權利三535

行政三499 516

希臘四495 的學問一250

科學一80 的限界一84 的研究一376 的體系一91

科學的男女平等說三155

科學四599

貨幣交易時代三297

化學理論一298

渦環說一297

空間上の自然淘汰二168

空中交通三296

組合三203

クルトゥール四319 321 322

化三333 四319

過開期(文明の)四414

快苦二79

懷疑四95 哲學一61 的方法一61

擴行力(文明の)四402 419

黃禍四562

黃人患四71

廣義社會學一98

完開期(文明の)四413 417

化合體一22

完全研究一4

完全理法二106

慣習制度二343

觀察一179

觀念二50 世界一256

官府學一321

熏習三356

外資三52

外社會二266

外貌の醜醜四344

群三14 36

群聚二340

群聚の體の社會化二405

群人心理一43

軍事三190

軍事國三173

軍政三502 519

軍隊三198 的組織四125 的對關四129

經驗的事實一189 的方法一156 主義一158

形而上、學一62 的理法二103

刑事人類學一343

經濟四390 的義解三261 的分類三262 的事項三264 的要素三266 的助件三271 機關三191 制度二349 四405 問題四556 的問題一284

經濟學一214 321

經濟的社會本位主義四282

經濟的個人主義四277

經濟的帝國主義四267

名目索引



啓導主義 349  
 刑政 167  
 刑罰權 274  
 兄妹婚姻 95  
 啓蒙哲學 275  
 契約的有機體 44  
 血縁、關係 340 的類似 341  
 中心觀 14  
 結局論 416  
 研究法 148  
 權義思想の發達 520  
 權利 412 統制 522 の發達 537  
 權力統制 521  
 憲法 257  
 元 240  
 言語 213 242 382 422 423  
 原形質説 306

現象 225 の説明 118  
 原始的内外婚 391  
 原始的存在 131  
 原生階級 196 200  
 減退的 162 362 387 396 399 430  
 原理 108

戸 345  
 行爲 255  
 攷數 495  
 公財 313  
 好學的特性(支那の) 488  
 恆久仲裁條約 252  
 講座社會主義 293  
 恆存の關係 86  
 交通 338 開展の大勢 425  
 公認教制度 252  
 洪範 228  
 公表象私表象 213

校風 301  
 幸福主義 479  
 功利主義 531 四 178  
 蓋量 154  
 交和 268  
 古學復興 271  
 國家 368 156 159 體制 156  
 社會と關係 159 制度 347  
 國家主義 358 四 222 229 230  
 國家學 213  
 國家社會學 235  
 國會議合平和會議 233  
 國交 499 540  
 國際、社會 371 制度 347 體制 3208 の通義 541 原論 139 の問題 234 問題 4562  
 國際仲裁制 249 250  
 國際法學會 234  
 國粹、主義 400 325 保存主義 359

國性剝奪 246  
 國性、國粹、國體、國民性 374  
 國際的事項 385  
 國民的事項 384  
 國民的統整(歐洲諸國の) 450  
 國語 346 402 21 の整理 348 の擴衍 348  
 心 16 48  
 個心の特習 145  
 個人、單位説 340 の理法 296 の動機 275 主義 420 229 230 の理想 161 167 202 と社會との關係 76  
 個人的家族 117  
 個人的社會的理法 98  
 個人的模倣 384  
 個人の社會化 2402  
 古生物學 22

個念、概念 252  
 渾一體 15 遺忘の弊 17  
 渾一的最高觀念 70  
 婚姻 249 39 の形式 86  
 購買婚姻 388  
 根本理想 169 170

三段解義 11  
 三權、分立 279 鼎立論 538  
 細身 66  
 最大多數最大幸福主義 4179  
 採長補短 4300  
 參贊主義 4304  
 三期變遷説 488  
 產業的組織 125  
 產業的對關 129  
 鎖國政策 604  
 採取期 275  
 最初模倣者 3404  
 催眠的暗示 3414

財產 312 相續 317 平均 273  
 權問題 314  
 財政 501 518  
 離婚 95

社會 9 の規定 234 の基礎 332 の成分 134 の成立 327 の單位 134 の要素 204 の動因 271 の發達 415 417  
 社會意識 33 220  
 社會運籌論 136 357  
 社會學 6 74 原理 132 原論 159 史論 133 實論 137 總論 132 本論 133 史料 203 の學理 113 の歴史 199  
 社會化 43 2401 の難易 2404  
 社會活力 2411 443 65  
 社會計 523  
 社會契約論 487  
 社會刑罰權 539  
 社會結合性 111 115  
 社會現象論 134

社會現象の四類 30  
 社會行爲 225  
 社會主義 54 215 287  
 社會心意 220 465  
 社會進化 425 の本質 488 の理法 309 の要素 427 の具象的及抽象的理法 444 の方式と實質 47 の實質的義 4131 の史觀 438 の大勢 444 の形相 192  
 社會進化の力學説 432  
 社會進化論 136  
 社會心理學 43  
 社會上の人格 64  
 社會實在論 134  
 社會實歷論 137  
 社會性 373  
 社會靜學 134 3 4  
 社會政策主義 4282

社會成立の理法二413  
 社會組織四116の實質的分類四117の形式的分類四124  
 社會對關四127  
 社會體制論三79  
 社會中心觀及個人中心觀三529  
 社會的エネルギー四437  
 社會的科學二118  
 社會的費用二226  
 社會的自覺四114  
 社會的自由の原理四25  
 社會的知行合一の原理四24  
 社會的動機二289  
 社會的抵抗力二405  
 社會的統一二208  
 社會的模倣三385  
 社會的理想三362四161205307  
 社會的理法二99

社會的倫理教二370  
 社會哲學一108  
 社會動學一136四3  
 社會發生論一135三5  
 社會發達の要因二424  
 社會本位主義四192226229230  
 社會問題一215四549550の概念四550の綱目555  
 社會有機體說一1226  
 社會理學一134二3200  
 社會理想論一137四136  
 社會力四395  
 社會歷程論一138  
 社交性一264二357379四115  
 社交的本能二359  
 社交的教化二362  
 宗教二302382三438四382の義解三439の職能三444の發達三453の人間行為規定三466の現實的調和四610思想二298

問題四564制度四405420  
 宗教的、社會主義一265專制主義四250帝國主義四264266  
 270平和主義三230  
 宗教的、組織四120對關四127  
 宗教的德教四590  
 宗教上の自由制度四252  
 宗儀、法儀、祭儀、喪儀三430  
 集合體一21  
 支家三46  
 四海主義四267  
 私產四277主義四277  
 自然移動(人口)二247  
 自然關係三130  
 自然觀察四93  
 自然起源說三6  
 自然社會三59  
 自然的社會的動機二291  
 自然淘汰の理法二167四68  
 自然平等、不平等三125126

自然法一273主義四250說一327  
 學派三506  
 自然力及自然物二316317  
 支那、思潮一225社會及文明四598社會の發達四477人口の沿革四512に於ける社會發生論三7  
 思想、實質上の開展四93形式上の開展四94開展の軌道四96問題四572  
 氏族體制三129  
 司配關係三120  
 市府三65  
 師父哲學一266  
 司法三499519537  
 思慕說一257  
 資本の發達三286  
 射伴經濟三301  
 寫象二29  
 奢侈問題四558

シャルマアニの國四499  
 主觀的歴史二205  
 主觀的觀念論一313  
 主觀的不足四282  
 手工經濟制三282  
 種族四60的動機二291保存三145保存の動機二292保存の動機の異說二294發達の動機二293  
 習俗思想二299  
 出產三40  
 主義四155の形相四158の不完完四157  
 主家關係三115  
 主我主義四186  
 主他主義四191  
 主父關係三118  
 主母關係三111  
 主樂主義四179  
 主要素二205

雌雄淘汰二179  
 消極懷疑一61  
 消極近接二344  
 消極的社會化二408  
 職業三338350  
 觸接二268  
 商工時代三280  
 生得的道德直覺說三365  
 植民、問題四559政策四508地獨立時代四534期三283  
 殖產國三178  
 所有物關係三104120  
 支離關係三213  
 資料の進歩三54  
 シンブリザンオン四319321323  
 新學興起一271  
 身二42外行為二62中行爲二62内行爲二62  
 眞偽二79  
 進化、の理法二153157の實質

的原理四90と進歩との關係四50的體統一70的體系一47  
 進化論一24012153154的倫理說三368  
 進化の對數的理法二165  
 新思想二303  
 親子、同棲三41關係三110  
 信仰三440の段階三464の自由一273  
 神位の輕重四540  
 神源說一278  
 神學的理法二102  
 神政、的國家三176政體四251  
 神的國家說一267  
 神祕主義三528  
 神法一274  
 心身の調和四104  
 心的現象一299  
 心的直覺一163

心理的天分三144  
 進歩一56四427の速度四432と退歩四131主義四200237  
 信用交易時代三298  
 侵略主義四265266

自主主義四173  
 自衛的社會化二402  
 日耳曼の興隆四500  
 時間上の自然淘汰二169  
 自覺一176二78  
 自個實現四295328  
 自我直覺一175二78  
 自我、的動機二277發達の動機二279保存の動機二278  
 慈惠制度四407  
 時代精神二223298  
 實驗一179的理法二105  
 實現一56

實在的 185  
 實在的說明 118  
 實在恆常 31  
 實證 183  
 實用的 185  
 實理 62 四 183 的方法 62 159  
 的示命 四 153 的理想 四 309 的  
 學問 334  
 實理主義 四 183 244 の法律觀 三  
 535  
 實理的社會學 103  
 實理哲學體系 322  
 實理政學體系 336  
 儒學 203 231 四 85  
 十字軍 四 498  
 充實 443  
 純宇宙、純實在 226  
 純我、純心 24  
 純主觀體 216  
 自由 四 105 の存立、境界 四 106

主觀的及客觀的 四 108  
 自由意志論 四 15  
 自由關係 三 121  
 自由競爭 四 277 280 說 一 369  
 自由行動說 二 60 四 110  
 自由史觀 四 23  
 自由主義 四 254  
 自由性 二 17  
 自由的變動 四 37  
 自由平等主義 一 358 三 524 533  
 自由放任說 四 196  
 女權俗 三 118  
 女權論 四 567  
 女工及幼工問題 四 556  
 助要素 二 205  
 攘夷主義 四 26  
 蒸汽力使用 三 292  
 常識 一 60 101  
 情性の開展 四 102  
 常設仲裁裁判廷 三 252

條約 三 221  
 仁 二 363  
 人意起原說 三 6  
 人意關係 三 130  
 人意社會 三 59  
 人意的社會的動機 二 295  
 人意平等及不平等 三 126 127  
 人爲物 二 318  
 人格 一 40 二 63 的統一 二 395  
 人權思想 三 535  
 人口 二 245 四 54 率 二 249 の移動  
 二 246 移動の形式 四 360 の稠  
 度 四 523 の増殖 四 513 の文明  
 規定 四 354  
 人口減衰 二 251 四 356 559  
 人口問題 四 553  
 人種 二 238 起原說 二 239 の類似  
 二 341  
 人種問題 四 559  
 人心の解放 四 578

八  
 人生 一 52  
 人的現象 一 40  
 人的動因 二 273  
 人的理法 二 95  
 人道 四 115 123 126  
 人道主義 四 273 275  
 人道的學問 一 335  
 人法 一 274  
 人民 三 170  
 人力交通 三 203  
 人力使用 三 291  
 人類、學 一 212 の發生 三 16  
 人類一源說 三 23  
 人類多源說 三 23  
 人類社會 三 71  
 衰亡 二 451  
 推理的方法 一 163  
 水流 四 366

西班牙葡萄牙 四 501

七  
 制遏主義 三 494  
 性格 二 241 三 344  
 政教一致 四 251  
 生活現象 一 298 二 45  
 生活狀態 四 407 關係 三 343  
 生活力 二 45  
 制限婚姻 三 96  
 成婚率 二 250  
 制裁 二 59  
 政策 三 499 512  
 生死 二 65  
 正邪 二 79  
 性質説明の理法 二 93  
 生殖 一 25 上の意識的淘汰  
 二 179  
 性及習 三 354 358  
 生存 二 71 の費用 三 32 競争の

原理 四 189 上の意識的淘  
 汰 二 178  
 世代繼續 三 135  
 政治 三 483 四 390 の義解 三 487 の  
 目的 三 488 の權威 三 489 の全  
 體的發達 三 543 制度 四 405 的  
 問題 一 282  
 政治原論 一 139  
 政治國 三 173  
 政治的專制主義 四 250  
 政治的帝國主義 四 264 266  
 成長 一 24  
 正統的教學 一 268  
 青銅時代 三 288  
 制度 二 257 346 377 四 65 404  
 性能 四 97  
 生物界 二 230 319 の文明規定 四  
 372  
 生物進化、論 三 20 の原理 一  
 307

生物發生論 三 18  
 生物學 一 73  
 政法哲學 一 272  
 精密的 四 186  
 性慾婚姻 三 86  
 性慾關係 三 104  
 生理的天分 三 143  
 勢力主義 三 524  
 勢力範圍 四 264  
 世界 二 7 の觀念 二 372 の形勢  
 の文明規定 四 373  
 世界經濟期 三 284  
 世界交通 四 581  
 世界史 一 210 320  
 世界主義 四 270  
 世界前史 四 545  
 世界の歴史 四 445  
 世界文明の基地 一 221  
 世界歴史 四 445 545  
 石器時代 三 287

九  
 責任 二 59  
 積極懷疑 一 61  
 積極的、建設的 四 186  
 積極的接近 二 344  
 積極的社會化 二 407  
 折衷的 四 96  
 說明 一 108  
 專制主義 四 120 247  
 先存萌芽說 一 305  
 選擇 二 57 の對境 四 107  
 戰爭 三 227 の進化 三 243 の困難  
 三 235  
 七  
 說 三 397  
 絕對完全理法 二 101  
 絕對統治 三 164  
 絕對理法 二 91  
 善惡 二 79

ソ

- 綜合一190的方法一161
- 想像的社會改良論一19
- 宗支の關係三45
- 創造說三124
- 相續四283
- 相對的三186
- 相對完全理法二102
- 相對統治三165
- 相對理法二92
- 相當平等三154
- 相同平等三154
- 組織關係三216
- 祖先崇拜三457
- 尊王斥霸一353
- 存在の理法二127
- 憎新主義四239

増進及減退四46

- 増進的三162
- 増大二439
- 族三42
- 族制三65
- 族制主義四452
- 族制的國家三174
- 體格二240
- 大化の改新四462
- 大觀主義四175
- 體形二240
- 體系一124
- 體系的學問一127
- 對自然防備三52
- 體質二241
- 對數函數二440
- 對數的進化の原理四25
- 大數計量一338

體制一22

- 體制關係三132
- 對敵防備三53
- 拓植創業時代四534
- 他攻的社會化二406
- 多妻關係三97
- 自然的、人意的三97
- 他人的動機二281
- 多夫關係三96
- 他力宗教四196
- 單純關係(夫婦)三106
- 第一原因二90
- 第一原理一252
- 第四級一288
- 代謝機能一24
- 大都會人口の増加四521
- 大洋交通三294
- 奪掠婚姻三87

智、情、意二51の發達二444

- 知、行一56
- 地位四370
- 地域同棲觀三14
- 知覺一177
- 裝置の開展四160
- 力の上の自然淘汰二170
- 治化四319
- 知識二54
- 知識慾一99
- 地質二226
- 文明規定四363
- 稚兒鞠養三136
- 地勢二228
- 地積四362
- 地相四365
- 秩序四428
- 秩序の關係二87
- 秩序説明の理法二93
- 秩序主義四216

秩序的進步主義一358

- 秩序期、無秩序期三61
- 秩序紊亂の時期三60
- 智能の開展四101
- 地面二226
- 仲裁裁判三250
- 注入主義四286
- 超國民的事項二385
- 潮汐進化論一303
- 超絶起原說三5
- 超絶作用二305
- 調停三249
- 超有機體一29
- 直覺的方法一163
- 直接發達二426
- 持續力(文明の)四396

抵抗の理法二146

- 帝國主義三75
- 定性的方法一166
- 定量的方法一168
- 適用の進步三55
- 哲學一78
- 哲學的男女同等說三155
- 哲學的社會主義一265
- 鐵時代三288
- 鐵道交通三295
- 天下三71
- 天孫降臨四458
- 天體學一72
- 天體進化論一303
- 天然的事項二252
- 天然的動因二273
- 傳承二267
- 傳説二223

電力交通三295

- 電力使用三292
- 統一二392
- 投影二305
- 統計的方法一170
- 統計的理法二104
- 東西の交通四525
- 等質、不等質二192
- 統制四246
- 統制二193
- 統治三156
- 形式三164
- 質三166
- 制度二351
- 機關三186
- 統治權一275
- 統治者三170
- 人民の相關三172
- 東洋覺醒時代四535
- 東洋文明四596
- 頭髓の形狀四344
- 德教三346
- 408
- 589
- の發達四608

特殊原理二190

- 特殊原則二323
- 特殊創造說三39
- 特殊方法一156
- 特殊理法論一134
- 德の發達二445
- 都市村落人口問題四559
- 土地二226
- 土地改良期三280
- 土地所有三313
- 富の發達二444
- 動機二54
- 動學的研究、靜學的研究四5
- 道德三337
- 道德的、組織四123
- 對關四128
- 道德的功利主義四179
- 道心の發達四606

道理の發達 四 88  
 動物社會 一 10  
 動物使用 三 291  
 動物力交通 三 293  
 同處生活 二 336  
 同時生活 二 337  
 同情、愛、仁 二 365 四 115  
 同族婚姻 三 91  
 同胞關係 三 42 125  
 同盟 三 223  
 同類意識 一 43 二 217  
 土器時代 三 287  
 獨斷 四 94  
 獨斷的方法 一 59  
 獨斷的社會學 一 112  
 獨立主義 四 292  
 度制 二 182  
 度制の理法 二 185 四 64  
 度制的進化 四 67  
 奴隸 三 196

ナ

內國商業期 三 283  
 男女の分業協力 三 137  
 二  
 二局議院 二 279  
 二元論的社會學 一 103  
 日本、建國の基礎 四 452 思潮  
 一 224 主義 一 363 社會 四 451 支  
 那の交通 四 528 人口の沿  
 革 四 514 文明 四 602  
 任意關係 三 132  
 人間攷察 四 93  
 農耕時代 三 278  
 農政的社會主義 一 265  
 農民 三 199  
 則 一 57

ハ

破壞主義 四 231  
 發生説明の理法 二 94  
 發生的の元 二 40 139  
 發達力(文明の) 四 398  
 發明 二 303  
 半開期 四 217 413  
 煩瑣哲學 一 266  
 犯罪、社會學 四 570 人類學 四  
 570 問題 四 569  
 播種期 三 279  
 判斷 二 79  
 範疇 一 177 二 52  
 範疇の體系 一 46  
 藩鎮 四 485  
 版圖 二 440  
 培養期 三 279  
 則 一 57

一二

萬國協同事業 一 372  
 萬國平和局 三 233  
 萬國平和會議 三 233  
 萬世一系 一 351  
 萬象 二 9  
 萬象恒常 一 57 二 21 86  
 萬法 二 31  
 萬有二 9  
 萬有の體系 一 47  
 非開化論 四 316  
 比較 一 182  
 比較法學 一 329  
 東羅馬 四 506  
 非社會學的性質 一 244  
 必至論 四 15  
 必然性 二 17  
 人二と世界との關係 二 75  
 人の自由 四 13

ヒ

批判的 四 96  
 批評的方法 一 62  
 批評哲學 一 311  
 非父權說 三 6 10  
 祕密結社 三 203  
 百科全書派 一 278  
 比例平等主義 四 217  
 品格 三 342  
 品性 三 341  
 ビ  
 美醜 二 79  
 美術 二 303 三 470 四 383 の分類 三 471  
 の職能 三 473  
 美的理法 二 97  
 美皆是善 一 258  
 平等主義 四 212  
 フ  
 非尼西亞 四 493

風化 三 387

風俗慣習 二 352 三 383 四 386 の  
 職能 三 420 の效力 三 423  
 夫婦關係 三 100 自然の人意  
 的 三 104  
 風力水力使用 三 292  
 複雜關係(夫婦) 三 107  
 服從婚姻 三 89  
 服從的國家 三 179  
 副生階級 三 199 201  
 複性的觀念論 一 316  
 不完全理法 二 102  
 父權說 三 6 8  
 不合理經濟 三 300  
 婦女の財産所有 三 150 の職  
 業 三 148 の社會的地位 三 141  
 の天分 三 142  
 婦人問題 四 567  
 不調和、調和 二 192  
 普通社會學 一 143

佛國革命 一 281

不等質雜婚 三 96  
 不判明、判明 二 192  
 不文的立憲主義 四 259  
 普遍原則 二 125  
 普遍原理 二 4  
 普遍統治 三 166  
 不滅の理法 二 142  
 フ  
 武裝の平和 四 563  
 物質 二 185  
 物質的功利主義 一 358  
 物身 二 27  
 物心論 二 154  
 物的理法 二 92  
 物物交易時代 三 296  
 物理學 一 71  
 物理的觀念論 一 314  
 武名制度 四 467

部落 三 68

分業的趨勢 一 368  
 分化 二 193  
 文化主義 三 497  
 文藝復興 一 270 四 508  
 分析 一 190  
 分配發達の標準 三 317  
 分配問題 三 304 の根本要素  
 三 307  
 文明 四 296 613 の義解 四 318 339 の  
 屬性 四 331 の要素 四 340 の規  
 定 四 341 の機關 四 381 の目的  
 四 427 の見在 四 332 の理想の  
 所在 四 323 の理想の發生  
 四 335 の實現 四 337  
 文明階級說 四 322  
 文明開化 四 323 324 325  
 文明史 一 121 209 318  
 文明進動、の方式 四 411 の大  
 方式 四 415

文明の力<sup>四</sup> 392  
文明の壓力、文明の抵抗<sup>力</sup><sup>四</sup> 409  
文明的問題<sup>一</sup> 285  
文明の講說<sup>四</sup> 316

へへへ

平民主義<sup>一</sup> 359  
平和主義<sup>三</sup> 75 226 四 564  
平和協會<sup>三</sup> 232  
變化説明の理法<sup>二</sup> 93  
變遷<sup>二</sup> 415  
變態的理法<sup>四</sup> 74 76 77  
部<sup>三</sup> 44  
波斯<sup>四</sup> 492

ホ

封建の體制<sup>四</sup> 470  
法制<sup>四</sup> 387の形式的要素<sup>三</sup> 507  
の實質的要素<sup>三</sup> 506の成

文不文<sup>三</sup> 504  
法制的、組織<sup>四</sup> 121對關<sup>四</sup> 128  
法治<sup>三</sup> 168思想<sup>一</sup> 272主義<sup>三</sup> 496  
放任主義<sup>四</sup> 242  
法律の變遷發達<sup>三</sup> 524 536  
法律萬能<sup>三</sup> 506  
法王全權<sup>一</sup> 268  
北米合衆國<sup>四</sup> 510五期の變遷<sup>四</sup> 511  
保守主義<sup>四</sup> 234  
本心、良心<sup>四</sup> 181  
本心主義<sup>四</sup> 180  
本體<sup>二</sup> 25  
ボボ  
牧畜期<sup>三</sup> 277  
母系と母權との關係<sup>三</sup> 117  
母權家族及父權家族<sup>三</sup> 117  
母子共棲<sup>三</sup> 41  
几亞利安主義<sup>一</sup> 367

几イベリア主義<sup>四</sup> 512  
几神論<sup>一</sup> 278  
几米主義<sup>四</sup> 512  
ポテンシアル<sup>四</sup> 409  
身<sup>二</sup> 42  
未開期<sup>四</sup> 412 417  
未成説明の理法<sup>二</sup> 95  
未成説明の理法<sup>二</sup> 95  
民政主義<sup>一</sup> 252  
民政主義<sup>三</sup> 502 519  
民性<sup>二</sup> 296  
民族、の體格<sup>四</sup> 341の體質<sup>四</sup> 345の性格<sup>四</sup> 345の純雜<sup>四</sup> 349  
民族移轉<sup>四</sup> 529  
民族主義的關係<sup>四</sup> 129  
民族心理學<sup>一</sup> 43  
無意識<sup>二</sup> 24 51

無我無他的動機<sup>二</sup> 287  
無機的方式<sup>二</sup> 137  
無關係(親子の)<sup>三</sup> 119(國際の)<sup>三</sup> 213  
無差別性交説<sup>三</sup> 118  
無主關係<sup>三</sup> 110  
無、純、虛<sup>二</sup> 25  
無性的協同生活<sup>三</sup> 40  
無政府主義<sup>四</sup> 256  
無倫俗<sup>三</sup> 12  
迷信經濟<sup>三</sup> 301  
明治維新<sup>四</sup> 605  
墨是哥<sup>四</sup> 510  
滅亡<sup>二</sup> 329 451  
目的<sup>二</sup> 81 308  
模習<sup>一</sup> 5

物<sup>二</sup> 17  
模倣<sup>一</sup> 43 60 二 218 三 372 四 95  
模倣主義<sup>四</sup> 296  
門戶開放<sup>四</sup> 264

ヤ

亦我亦他的動機<sup>二</sup> 284  
約束的國家<sup>三</sup> 181  
耶蘇教<sup>四</sup> 583

ユ

唯心論的社會學<sup>一</sup> 102  
唯物論的社會學<sup>一</sup> 102  
有機體<sup>二</sup> 22の二級<sup>一</sup> 48  
有機的起原<sup>一</sup> 305  
有機的人格的渾一體<sup>一</sup> 52  
有機的統一<sup>二</sup> 395  
有機的方式<sup>二</sup> 137  
有形科學<sup>四</sup> 507  
優勝劣敗<sup>四</sup> 48

優生學<sup>四</sup> 358  
有性關係<sup>三</sup> 32  
有性的協同生活<sup>三</sup> 39  
遊牧時代<sup>三</sup> 275  
猶太<sup>四</sup> 493  
ヨ  
要性<sup>二</sup> 389  
豫言<sup>二</sup> 301  
輿論<sup>二</sup> 223 296  
ラ  
樂天主義<sup>四</sup> 195  
リ  
理<sup>一</sup> 57  
理、勢<sup>四</sup> 4 37 135  
流行<sup>三</sup> 403の原點<sup>三</sup> 404の張力<sup>三</sup> 405自然及人爲<sup>三</sup> 409  
利益主義<sup>三</sup> 524

利害關係<sup>二</sup> 215  
俚諺、格言<sup>三</sup> 347  
理想<sup>一</sup> 56 84 313 四 40の要素<sup>四</sup> 140の規定<sup>四</sup> 143の自由<sup>四</sup> 146の屬性<sup>四</sup> 152の品質<sup>四</sup> 149  
理想的淘汰の理法<sup>二</sup> 187 四 70 80  
理想的道德、見在的道德<sup>三</sup> 348  
立憲主義<sup>四</sup> 256  
立功の動機<sup>二</sup> 286  
立德の動機<sup>二</sup> 288  
立法<sup>二</sup> 302 398  
立名の動機<sup>二</sup> 284  
理法<sup>二</sup> 33  
兩主關係<sup>三</sup> 114  
良心<sup>二</sup> 58  
兩性協力<sup>三</sup> 145  
兩性關係<sup>二</sup> 340  
力學的觀念論<sup>一</sup> 316

理論的研究<sup>一</sup> 4  
臨時仲裁<sup>三</sup> 252  
倫理<sup>三</sup> 349  
倫理的理法<sup>二</sup> 98  
ル  
類似<sup>二</sup> 360  
類推的理法<sup>二</sup> 103  
ルブレイ方法<sup>二</sup> 181  
レ  
禮<sup>二</sup> 364 四 389  
禮儀<sup>三</sup> 432 四 389  
隸屬關係<sup>三</sup> 105  
隸農<sup>三</sup> 205 321  
歴史<sup>一</sup> 204 318  
歴史的研究<sup>一</sup> 4  
歴史的研究<sup>一</sup> 4  
歴史の觀察<sup>一</sup> 184 186 197  
歴史の理法<sup>二</sup> 104  
歴史の事項<sup>四</sup> 118

普通社會會  
 歴史哲學一 121 205 319 四 87  
 歴史理法觀四 12  
 歴史法學一 328 三 529  
 レギラアト三 91 118

聯合三 377  
 勞働問題四 556

羅馬四 486  
 露西亞四 506  
 論理學一 71  
 論理的觀念論一 315

一六  
 論理學的理法二 97

諸家要覽

〔括弧を附せるは書目を挙げて著者を挙げるもの〕

アキヌス一 263	アリストテレス一 107 254 262	〔出雲風土記〕四 456	エリオン一 112
アガシイ一 158 三 27	二 85 155 370 三 317 485 四 88 300	イナマ・ステルネツグ一 348	エリス三 133 368
アグリコラ一 303	アルベルチ一 276	イングラム一 215	エルエチウス一 218
アダムス(ジ)三 452 四 316 353	青木昆陽一 357	禹一 228	エンゲルス一 291 三 9 82 91 133 140
アダムス(ロ)四 358	アゾロエス一 267	内田正雄四 184	エンゲル一 174
アダム・スミス一 322 325 二 250 三	アンフアンタン一 291	ウノルド三 110 330	エンペドクレス二 154
〔東鑑〕四 467	アイエリグ一 329 二 74 三 530 四 329	エ	オ
アナクシマンドロス二 154	イサイエフ二 304 三 202	エスカルチン一 343 三 154	大隈重信一 358
アプ・ベクル一 267	イズウレエ一 340 二 203 391 三 67 166	エスピナス一 44	大鹽中齋一 355
アブラモフスキイ一 106	板垣退助一 358	エペリング三 197	オオスチン三 531
アンモン二 160	伊藤博文一 358	エビクルス一 28 三 7 四 179	オオリウ二 203 三 1 四 498
新井白石一 354 二 418 四 317 459	伊藤長胤四 459	エマルソン四 317	オオエン一 287 292 三 330 359 四 8 235
有賀長雄一 364	伊東祐毅四 515	エリイ一 294 三 313 314	オスボルン一 310

諸家要覽

カ

カアライル 318 344 229 330  
 カウツキイ 294  
 賈誼 330 四 317  
 加藤弘之 361  
 カトルフアジ 三 27  
 カベエ 291 四 285  
 賀茂真淵 四 453  
 カアロワ 329  
 カルヲ三 543  
 カワレフスキイ 341 三 9 14  
 82 117  
 カヅウル 533  
 カント 57 70 155 176 177 178 19 278 229 302 347 310  
 346 215 24 25 31 128 141 158 三 19 229 302 347 310  
 471 四 175

ガ

ガイエル 202

ガイゲル 26  
 ガウメ 112  
 蒲生秀實 354  
 ガルトン 四 359  
 ガルレ 302  
 ガロフアロ 343  
 ガンベッタ 三 159 四 225

キ

キッド 二 160 四 131 317  
 キルズン 339  
 キギエニヒ 三 328  
 キョルン 三 328  
 キルカッ 294  
 キルヒホフ 300  
 キングスレイ 292 二 186 四 8  
 キイルケ 202

ギ

ギイルケ 202

ギウリンクス 二 22  
 ギゾオ 318 二 229 330  
 ギッディンクス 一 7 31 43 77  
 106 345 二 5 182 201 217 220 300 274 四 326 8 329 89 335  
 340 342 356 388 391 419 449 三 5 220 300 274 四 326 8 329 89 335

ク

クウザン 三 536  
 クウノウ 三 82  
 クウランジ 208 209 三 8 12 67 82  
 クウルセル・スノイユ 117  
 339 83 140

陸實 359  
 〔俱舍論〕 四 598  
 熊澤蕃山 354 356  
 クナツ 348  
 クニイス 324  
 久米邦武 四 452  
 クロオン 348  
 クロップストク 361 二 382  
 クラアク 四 521  
 クラフツ 112  
 クラバトキン 291  
 栗田寛 四 459  
 クロジアル 四 316  
 クロエル 三 330  
 クレマン 339

グ

グナイスト 329 348  
 グロオヴ 294  
 グラハム 294 二 250

グロオセ 三 14 45 82 118  
 グロチウス 273 二 370 372 三 229  
 グロオト 260 三 8  
 グンプロキツ 一 7 43 107 122  
 488 128 210 329 348 二 160 270 326 473 329 562 400 419 122  
 158 211 486 543 四 445 473 562

ケ

ケエリイ 20 67 97 110 160 345 二  
 7 58 128 四 230  
 ケトレエ 67 174 338 二 7 250 5  
 ケネエ 322  
 ケル三 328  
 ケルラル 四 194  
 ゲ  
 ゲラン 二 298 四 254  
 ゲンチリス 273 327 三 229

コ

諸家要覽

〔康熙字典〕 三 332  
 孔子 66 230 331 332 341 367  
 コオデルリ 二 249  
 コオレル 329 348 三 82 516 524  
 コスト 75 二 203 四 136 516 524  
 コムト 一 7 20 28 52 59 60 61 62 65  
 67 75 90 97 110 120 142 149 158 181 202 202 371 三 4 326  
 331 二 5 7 33 33 85 108 128 149 158 181 202 371 三 4 326  
 83 140 158 328 453 486 535 四 6 68 88 131 185

〔古事記〕 四 459  
 コムト 一 7 20 28 52 59 60 61 62 65

ゴ

小中村清矩 361  
 小中村義象 四 459  
 コブデン 三 229  
 コラヤン 二 343 二 161  
 コロンナ 267  
 コンシデラン 110 291 三 330 398  
 486 489 四 166 209 295 308 322  
 コンチャック 278  
 コンドルセ 280 二 250 三 535  
 コンバイン 四 295

ゴオタイン 210 319  
 〔後漢書〕 四 526  
 ゴルドスタイン 二 251

サ

佐久間象山 357 二 418 四 184  
 佐田介石 四 326  
 サライビイ 四 359  
 サルガント 287  
 サレイ 44  
 ササニイ 328 四 229  
 サンシモン 182 291 三 339 453 512 535  
 四 6 8  
 サン・ピエール 僧正 三 229  
 シ  
 シイレイ 三 185  
 シェリング 314 二 31

司馬遷 66 241 四 317 526  
 シゲレ 二 297 三 206  
 シセロ 三 228  
 シムコックス 319  
 シモン 三 229 233  
 シファテスベリイ 277 三 328  
 〔周易〕 27 238 二 418 三 34  
 周公 241  
 朱晦庵 27 二 39  
 シュナイデル 三 108  
 シュミットワルネック 一  
 348 四 166 304  
 シモルレル 202 291 348 四 7  
 137  
 〔周禮〕 三 333  
 シュライエル 三 27  
 シュレエゲル 210 319 四 11  
 シュロオセル 261  
 〔春秋〕 238 三 8  
 シュプリエ 三 160 四 225



〔尙書〕一 27 235 三 8

〔續日本記〕四 458

シオペンハウエル 一 122

211 315 二 31 38 三 532

ジ

ジュチンス 一 90 123 155 180 344 二 85

三 398

ジツチアルヂニ 一 273

ジヤネエ 三 486

荀子 三 332 367

ジョウル 一 194

ジロオチウロン 一 340 三 9 12

82 116

ジンメル 一 7 77 106 208 348 二 202 三 205 四 42

ス

スコルピス 三 227

スタアル 一 202

スタイン 一 7 31 57 106 150 202 207 346

348 四 6 202

スタインタアル 一 43 105 349

スタルケ 一 349 三 10

スタナムハンマル 一 295

ستنチング 一 329 三 512

スチッケンベルグ 一 8

142

ステッド 三 229

ステノ 一 304

ステルネ 三 30

ステワート 三 140

ステンゲル 三 75

スペインサル 一 7 20 28 49 67 76 79

90 104 110 149 161 167 181 202 344 二 5 7 31 37

85 128 129 149 160 194 218 245 274 330

355 356 359 419 448 4 9 44 70 81 325 330

158 180 196 211 363 448 4 9 245 274 330

50 65 85 89 124 131 45 192 225 229 67 四 42 68

セ

セインボス 一 188

セッケンドルフ 一 276

セネカ 三 229

セヨン伯 三 232

ソ

蒼頡 一 226

ソクラテス 一 254 三 327

蘇老泉 二 331 四 317

ソロン 一 252 三 327

タ

タイロル 一 181 三 44 82

高山正英 一 357

竹内式部 一 354 二 357

谷干城 一 359

タルド 一 43 52 106 340 344 二 5 161 182

201 204 214 218 335 391 419 三 330 432 453 475 486

ダ

ダアレン 四 589

〔大學〕一 66

伊達千廣 四 459

伊達政宗 一 355

ダルグン 一 342

ダルマアニ 一 349

ダルキン 一 49 302 305 307 二 128 158 160

三 18 19

ダルクン(エ) 一 304

ダンツ 一 329

ダンテ 一 272

チ

チイグレル 四 230

〔中庸〕三 367 四 88

チエク 一 342

ニイブウル 三 8

西周 一 360

西村茂樹 一 360

ニツチ 二 251

〔日本書記〕四 457 462

ネ

ネエグリ 一 308

ノルダウ 四 316

ノヰコフ 一 589

297 307 326 329 335 101 112 341 二 317 400 160 202 436 214 438 270

449 三 211 四 6 210 239 261 317 345 589

297 307 326 329 335 101 112 341 二 317 400 160 202 436 214 438 270

211 329 388 391 341 二 345 412 160 589 436 214 438 270

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

210 239 261 317 345 589

チ

チエルワル 三 8

チユルゴオ 一 322 三 535

チリエエ 三 93

チリング 二 401 四 166

チデロオ 一 278 305

チクウドレイ 一 210 319

チコンモン 三 229

チユボン 四 225

チユモン 四 338

チユルケイム 一 7 161 173 343 二

202 401

チヅアル 四 225

チル 二 331

チエ子 四 183

チイト 一 295

テイヌス 三 475

テ

テエル 四 359

テカルト 二 8 22 三 535

テベラー 一 343

テパレドス 一 343

テウソボト 四 359

トエンニス 一 53 320 348

ト

〔湯庚〕三 366

徳川光圀 一 354

徳永滿之 一 77

トビナアル 三 30

トマジウス 一 276

トムソン 一 295 二 140

外山正 一 362 366 二 177 三 13

トライチケ 一 330

ト

トグレエフ 一 7 43 107 122 128 210

25 329 348 二 160 239 270 326 329 359 400 419 438 三

158 211 486 543 四 445 473 562

ドモオ 一 30

ドラグラツスリイ 三 454 470

ドアラウジ 二 161 326 四 344 562

ドレエバル 一 131

ドロベルチイ 一 8 326 341 369

ドンナ 三 486

ナ

中江篤介 一 358

中村正直 一 360

ナトルプ 三 329

新島襄 一 358

ニイチエ 二 141

ニ

ハイトレイ 一 212

ハアリス 一 161 344 二 186 214 382 四 8

萩野由之 四 459

ハイトレイ 一 212

ハアリス 一 161 344 二 186 214 382 四 8

萩野由之 四 459

ハイトレイ 一 212

ハアリス 一 161 344 二 186 214 382 四 8

萩野由之 四 459

ハイトレイ 一 212

ハアリス 一 161 344 二 186 214 382 四 8

萩野由之 四 459

ハツチソン 一 277 三 328  
 ハックスレイ 一 344 三 330 403  
 ハミルトン 一 202  
 ハルシエル 一 302  
 ハルトマン 一 44 81 316 二 31 24 141  
 三 304  
 ハンセン 一 348

バ

バウムガルテン 一 278  
 バクオオフェン 三 9 11  
 バスコム 一 8 345 四 42  
 バスチアン 一 210  
 バザアル 一 291  
 バックス 一 344 三 330 四 276  
 バックル 一 318 二 229 三 330 三 12 362  
 馬場辰猪 一 348  
 バベウフ 一 291 四 285  
 バリッキイ 一 348  
 バルク 三 531

バルト 一 112 208  
 バルリット 三 232

バ

バウル 一 43  
 バウルゼン 一 65 四 295  
 バスカル 三 229  
 バッシイ 三 229 233  
 バレデス 一 27

ヒ

ヒックマン 四 519 521  
 ヒュム 一 310 二 19  
 ヒョフディング 一 202  
 平田篤胤 四 453  
 ヒルデブランド 一 324 三 296

ビ

ビイル 四 358  
 ビスマルク 一 361

ビッドル 三 453

ビッフォン 三 27  
 ビュヒネル 三 30  
 ビョッシユ 三 311 四 216  
 ビョルシユ 三 30  
 ビラン 三 536

ピ

ピアソン 四 359  
 ピイシ 一 76  
 ピオトル 二 388

フ

フアブルゲット 一 105  
 フレアス 一 258  
 フイエエ 一 7 28 44 75 105 161 188 202  
 208 239 三 471 四 137 276  
 フイアカント 四 322 412  
 フイゲラ 一 343  
 フイスク 一 67 160 二 140 四 89 131

フィソン 三 12  
 フィッセル 三 329  
 フィヒテ 一 65 278 313 346 二 31 四 267  
 フイリモオル 三 211  
 フウベルトス 三 7  
 フウリエエ 一 291 292 三 535  
 フウルニエエル 一 67  
 フアパンクス 一 8 345 四 6  
 8 42

フェデリチ 一 68 四 131  
 フェスロン 三 229 328  
 フェヒネル 三 475  
 フェルガッソン 一 344 四 316 319  
 フェルリ 一 343 四 173 239 570  
 フロン 四 131  
 フオイエルパッハ 三 540  
 フオルケルト 三 329  
 フオルボネイ 四 519  
 フオンモオル 一 348 二 251  
 福澤諭吉 一 358 360

藤田東湖 一 357

藤田茂吉 一 357

藤井健治郎 四 11

フラウンホフエル 一 300

フリイス 一 308

フリードレンデル 二 331

フリント 一 344

フルウマン トオ 四 518

フレンケル 三 329

フンボルト 一 304 二 141 三 25 27

フンク・ブレンタノ オ 一 110

208 三 330 432 453 543 四 316

ブ

ブウグレ 一 43 202 208  
 ブウホッ 一 304  
 ブウルジョワ 二 401  
 【佛説】 一 47 二 31 25  
 ブライス 四 251  
 ブライト 三 229

ブラン 一 291 292

ブランキ 一 291

ブランギル 三 27

ブリニウ 四 362

プリントン 一 106 二 195 220 297

ブルック 三 475

ブルンチニリイ 一 202 三 158 211

四 225

ブルンネル 一 329 三 512

ブルンホオフェル 二 214 338

ブレエク 三 26

ブレッソン 二 161

ブレンタノ オ 一 291

プロオス・バアテルス 三 154

プロック 一 343 三 543

ブウフェンドルフ 一 276

ブフター 一 328

ブラット 三 229

ブラトオン 一 27 254 255 331 332 二 155

三 317 四 111 163 188

プリニイ 一 212

ブルウドン 一 291 三 475 535

プレスコット 四 271

プレチャノフ 一 294

プロチヌス 一 264

ハ

ヘアレン 三 8  
 ヘゲル 一 59 70 81 90 211 314 319 361  
 二 31 141 448 三 530 四 8 87 109 131 229  
 ヘッケル 一 44 49 65 308 二 141 158 229 三

ヘルツカニ 二 250

ヘルデル 一 212 346 361 二 7 四 273

ヘルド 一 291

ヘルバルト 一 316 三 329 四 295

ヘルムホルツ 一 295 二 141 三 475

ヘルワルド 三 82 88 94 118

ヘロドトス 一 253

ヘンダロン 一 345 三 452

ヘンネ・アム・リオン 一 210 二 7

240 四 323

ヘ

ヘイン 四 295  
 ヘエコン 一 80  
 ヘエベル 二 246 三 154  
 ヘエレンパッハ 一 202  
 ヘニッケン 三 328  
 ヘルチオン 二 251  
 ヘルトレエ 一 48 306 三 18  
 ヘルンスタイン 一 294  
 ペンタム 三 531 四 179  
 ペンロエフ 二 275 四 12

ホ

ホエト 三 543  
 ホップス 一 27 274 275 327 三 7 158 530

四 229  
ホメロス一 251  
ホルン四 225  
ホワイト四 225  
ホキット三 12

ボ

ボオダン一 273  
ボオモン一 304  
墨子一 371  
ボッシュエ一 279  
ボルヂエ一 31  
四 70 323  
ボオルドキン二 162  
ボンギ三 229  
ボンステッテン三 328  
ボンネ一 278  
ボンホフ一 112

ボサダ一 343  
ボスト三 82  
ボビエドノスツエフ一 343  
ボンソソビイ四 218

マ

マイツェン一 174  
マイエル一 213  
マイル一 174  
マキアゴリ一 272  
マクレナン一 344  
マサリク一 349  
マゼル二 203  
松浦厚四 183  
マッカルチイ四 521  
マックス・ミユルラル一 246  
マックスエル一 295  
マッケイ一 344  
マッケンジイ一 8

マ

マッサル一 30  
マヨ・スミス一 110  
マヨランナ一 343  
マルクス一 291  
マルクス・アウレリウス 329  
三 229  
マルサス一 323  
マルテンス三 211  
マルコアルト三 233  
マルシリウス一 268  
マルブランシ二 22  
丸山作樂四 326  
マロク三 202  
マロン一 294  
マンデロー一 349  
ミシエル三 486  
三宅雄二郎一 359

宮崎道二郎四 452  
ミルレ三 27  
ミル一 149  
ミルトン一 274

ム

ムッケ三 14  
メエリグ一 294  
メイン一 329  
メンゲル一 31  
メンデルズゾオン二 371  
メンデレイエフ一 248

モ

モオア一 273  
孟子三 334

モオズレイ三 363  
モオリス一 292  
モオル一 202  
本居宣長四 459  
モルガン一 344  
モリナリ二 203  
モルセリ二 160  
モルトケ一 361  
モンテスキウ一 279  
モンムゼン三 8

ヤ

山鹿素行一 354  
山崎闇齋一 354

ユ

ユウ一 292  
ユゴオ一 294  
ユウベルエヒ一 124  
ユウリッシ一 210

ヨ

楊雄三 367  
横井小楠一 357  
吉田東伍一 357  
吉田松陰一 357

ラ

ラアマン一 202  
ラアエンスタイン四 521  
ライエル一 304  
頼山陽一 354  
ライスト一 348  
ライヒ三 154  
ライブニツ一 277  
ライマルス二 371  
ラインホルド一 313  
ラグランジ一 302  
ラブレジル四 166  
ラツアアルス一 43

ラッサル一 291  
ラッソン二 74  
ラツツェル二 229  
ラツツェンホオフェル一 31  
ラッド一 77  
ラフレシエル三 512  
ラプトオ三 151  
ラボック一 167  
ラバルグ一 294  
ラブラアス一 302  
ラッポホルト一 188  
ラマルク一 49  
ラマンネイ一 292  
ラヴレイ一 341  
ラズルニユ四 8  
ラングロア一 188  
ランゲ一 210

リ

ランダル・クレメエル三 233  
ランプレヒト一 188  
リイツ一 52  
ライプルー一 142  
リスト四 137  
リカルド一 323  
陸象山一 69  
〔六經〕一 66  
リクルゴス三 327  
リチャルド二 229  
リップルト一 210  
リットレ一 20  
リップレイ二 245  
リヤアノ二 294  
リポオ一 339  
リウメリン一 174  
リリエンフェルド一 341  
84  
44  
49  
104  
128  
341  
二 5  
202  
274  
325  
四 68

リンドネル 一 8 43 105 349 二 356  
リンネウス 三 27

ル

ルイイゼ 二 387  
ルウトゲルス 四 359  
ルウルベエ 三 154  
ルクレチウス 三 7  
ルストラアド 一 107 340  
ルツンオ 一 279 三 535 四 87 111 131 229  
243 316 322  
ルツンオ(ル) 二 214  
ルトッルノオ 一 105 110 167 181 339  
二 245 三 82 91 101 313 315 486 512  
ルナン 一 44  
ルヌアアル 三 229  
ルブレイ 一 110 142 149 181 338 二 5 三  
83 140  
ルボン 一 106 340 二 338 391 四 63  
ルモンニエ 三 229

ルロワボオリウ 三 160 330 四 226  
254 319

ルヴッスウル 四 518  
ルエリエ 一 302  
ルンゲ 三 154

レ

レイニ 二 203  
レイナック 四 517  
レクリエウ 四 8  
レッキイ 一 131  
レッシング 一 278 二 371 383 三 328 四 11

ロ

老子 二 25 31  
ロオロフ 一 342  
ロスタン 二 303 四 204 285 295  
ロジエエル 一 142 二 207  
ロク 一 274 275 327 三 7 158 534 四 219

ロッシュェル 一 288 323 二 250  
229

ロツス 一 345 二 299 359 三 452 453  
ロツツエ 二 140  
ロドペルトス 一 291  
ロバルトソン 二 297 四 267

ロホル 一 347  
ロリマル 一 344  
ロルフ 二 250  
ロンブプロオソ 一 343 四 570

ワ

ワアド 一 7 12 30 44 155 188 285 340 二  
207 238 三 83 四 6 42  
ワイス 四 165  
ワイスマン 一 308 二 160  
ワイセングリユン 三 159 四  
130 226  
ワイツェル 一 202  
ワグネル(ア) 一 115 291 325 二 56

ワグネル(リ) 一 137 225  
74 251 388 三 159 四 7 361

渡邊華山 一 357  
渡邊修二郎 一 357  
ワッセルラアブ 一 54  
ワット 二 403

ワルシャウエル 一 294  
ワルテル 一 329  
ワルラス 二 203 四 211

ワレエス 一 302 307 二 128 三 18 19  
ワッカアロ 二 161  
ワダレババレ 一 343  
ワンドルゼルド 一 30 二 195  
ヴンニ 一 343

井

井上哲次郎 一 357 363 366  
キックマン 四 521

維廉 一 361

キロビイ 四 212

井

井イニ 一 339  
井コ 一 277  
井ンセント 一 12 45 345 二 220 四 42

ヴ

ヴント 一 43 349 二 141 214 三 169  
エイランド 二 251  
エステルマルク 三 98

エッタム 四 359

エルネル 一 304

エロン 三 474

ワ

王陽明 一 27 三 341 363

小野梓 一 358

ラエレル 一 48 306 三 18

ラルフ 一 277 二 220 三 329

ラルムス 一 7 12 30 44 155 188 286 340  
二 207 238 三 83 四 6 42

## 題 後

普通社會學、明治三十七年其第一卷社會學序説を刊し、三十八年第二卷社會理學を、四十二年第三卷社會靜學を刊してより、著者と刊者と、往々又依違、爾來九たび年を閲して、第四卷社會動學刊漸く成り、附するに名目索引及諸家要覽を以てし、頁を累ぬること實に二千一百、全篇の刊刷乃ち完し、英國の碩學スペンサル翁の社會學原理第三卷の世に出でたる、亦實に其第一卷に後ること三十餘年、シカゴのメモオル教授此新冊を紹介して曰ふ、翁の社會學は茲に成れり、而して社會學の研究は是より始まると、翁は先師外山先生の先輩、翁の代よりして予の時に至る、斯學研尋の成績、東西の學界、固より觀るべきものありと雖も、茲に予が半生の造詣を收束して、還た教授の評言の頗る切にして且近きを感じずんばならず、術語の更修、論究の推進、通篇時に意に厭かざるものあ

る。是れ此種歲月を要する述作の常、既刊の卷冊に對して刊後の新著に  
參せざるを責むる、寧ろ責むる者の過のみ、學に事に、世は之を措くも、天  
の後學に付するの責、斯生豈諸を忽にするを容れむや。大正七年六月下  
辭、東京市外千駄谷村居に於いて、建部遜吾、短章を普通社會學の後に題  
し、乃ち以て自ら規す。時に櫻子漸く黒く、葉綠書屋を奄ひ、人をして茫茫  
櫻井の往事を憶はしむ。

# SOCIOLOGIE GÉNÉRALE

PAR

**TONGO TAKÉBÉ**

*Docteur en Philosophie,  
Professeur de Sociologie à l'Université de Tokyo.  
Membre de l'Institut international de Sociologie.*

---

## TABLEAU SYNOPTIQUE

DE

**IV<sup>e</sup> LIVRE**

**LA DYNAMIQUE SOCIALE**

**I<sup>er</sup> PARTIE**

**L'ÉVOLUTION SOCIÉTALE**

**Chap. I<sup>er</sup>—Principes de l'Évolution sociétale.**

- § 1. Introduction.
- § 2. Postulats de l'Évolution sociétale.
- § 3. Rapports et effets des facteurs, matériel et mental.  
Quadruple division des phénomènes sociaux :
  - I. Phénomènes matériels purs.
  - II. Phénomènes par action des moteurs mentaux sur les facteurs et les conditions matériels.

III. Phénomènes par action des moteurs matériels sur les facteurs et les conditions mentaux.

IV. Phénomènes mentaux purs.

§ 4. Catégories et rapports de l'idéalité et l'actualité (de la raison et de la circonstance).

§ 5. Idée de la loi de l'Évolution sociétale :

La loi concrète de l'Évolution sociétale donne l'explication pratique, et implique l'idéal et l'actuel (le déterminant libre et la condition mécanique).

La loi abstraite de l'Évolution sociétale est l'abstraction de la condition mécanique de l'évolution sociétale, et explique le cours pratique de l'idéal déterminé librement.

**Chap. II.—Formules de l'Évolution sociétale.**

- § 1. Formules de l'Évolution sociétale en général.
- § 2. Loi d'accélération dans l'Évolution sociétale.
- § 3. Loi d'hérédité dans l'Évolution sociétale.
- § 4. Loi d'institution dans l'Évolution sociétale.
- § 5. Loi de sélection naturelle dans l'Évolution sociétale.
- § 6. Loi de sélection volontaire dans l'Évolution sociétale.
- § 7. Loi de sélection idéale dans l'Évolution sociétale.

**Chap. III.—Matières de l'Évolution sociétale.**

- § 1. Introduction.
- § 2. Croissance de la pensée humaine.
- § 3. Développement des fonctions, corporelles, mentales et intégrales.
- § 4. Progrès de la personnalité.
- § 5. Développement du Social *self-consciousness*, comme effet du développement de la sociabilité.
- § 6. Progrès de la construction sociétale ;

I. Classée par la matière { système religieux.  
système juridique.  
système moral.

II. Classée par la forme { système familial.  
système militaire.  
système industriel.

§ 7. Progrès de l'interrelation sociétale.

La classification est la même que ci-dessus, sauf le système familial.

§ 8. Ensemble des matières de l'Évolution sociétale.

L'Évolution sociétale provient seulement de l'accroissement de la pensée humaine, achevant le développement des fonctions individuelles et le progrès de la personnalité, résulte de l'expansion de la liberté et du développement de l'humanité, accompagné par le progrès de la construction et de l'interrelation sociétales.

**II<sup>e</sup> PARTIE.**

L'IDÉAL SOCIÉTAL.

**Chap. I.—L'Idéal en Général.**

- § 1. Introduction.
- § 2. Genèse de l'idéal.
- § 3. Facteurs de l'idéal.  
L'idéal est l'idée, existant dans et par la pensée, cohérente avec les lois, qui doit être réalisée.
- § 4. Conditions de l'idéal.  
I. Objectives : universelles et particulières.  
II. Subjectives : matérielles et formelles.
- § 5. Liberté de l'idéal :
- § 6. Détermination de l'idéal et la réalisation.
- § 7. Matériaux de l'idéal.
- § 8. Le principe.



- § 9. L'idéal et la loi scientifique.
- § 10. L'idéal individuel et l'idéal sociétal.

**Chap. II.—Les Idéaux individuels.**

- § 1. Introduction.  
L'Idéal individuel est l'impératif imposé à la conduite de l'individu.
- § 2. L'idéal fondamental :  
*Super-egotisme, egotisme, universalisme.*
- § 3. L'idéal provenant du critérium de la conduite :  
*Utilitarianism, conscientisme, positivisme.*
- § 4. L'idéal provenant de l'effet de la conduite :  
*Egoïsme, altruisme, sociétisme.*
- § 5. L'idéal provenant de l'intuition de la vie (*Lebensanschauung*) :  
*Optionisme, pessimisme, méliorisme.*
- § 6. Valeur des idéaux individuels.

**Chap. III.—Les Idéaux Sociétaux.**

- § 1. Introduction.  
L'Idéal sociétal est l'impératif imposé à la conduite ou à la direction de la Société.
- § 2. L'idéal par rapport à la forme de l'organisation :  
*Principe de caste, pr. d'égalité, pr. d'ordre.*
- § 3. L'idéal par rapport à la matière de l'organisation :  
*Individualisme, étatismisme, sociétisme.*
- § 4. L'idéal par rapport à la formule de la fonction :  
*Radicalisme, conservatisme, progressisme.*
- § 5. L'idéal par rapport à la matière de la fonction en général :  
*Pr. d'intervention, pr. de laissez-faire, positivisme.*  
Voilà une vue générale des idéaux sociétaux ; il faut voir les idéaux par rapport à la matière de la fonction encore plus en détails.

- § 6. L'idéal du contrôle sociétal (l'idéal politique) :  
*Absolutisme, libéralisme, constitutionalisme.*
- § 7. L'idéal de l'interrelation sociétale (l'idéal international) :  
*Impérialisme, cosmopolitisme, humanitarisme.*
- § 8. L'idéal de la vie sociétale (l'idéal économique) :  
*Individualisme, communisme, sociétisme.*
- § 9. L'idéal de l'élévation sociétale (l'idéal éducateur) :  
*Inducationalisme, educationalisme, educ tionalisme.*
- § 10. L'idéal de la mission sociale (l'idéal civilisateur) :  
*Pr. d'imitation radicale, pr. de nationalité conservatrice  
pr. de promotion positive.*
- § 11. Conclusion.

**III<sup>e</sup> PARTIE.**

LA CIVILISATION.

**Chap I<sup>er</sup>.—La Civilisation en général.**

- § 1. Introduction.
- § 2. Qu'est-ce que la civilisation ?  
Comme définition préliminaire, la civilisation est la *self-réalisation* unique et organique de la société.
- § 3. Principes de la civilisation : son actualité, son idéal, sa réalisation.
- § 4. Facteurs et conditions de la civilisation :
  - I. La race : caractères corporelles, caractères mentales, la langue, simplicité et complexité de race.
  - II. La population.
  - III. La terre.
  - IV. Le climat.
  - V. Choses biologiques.
  - VI. États du monde.
- § 5. Organes de la civilisation :
  - I. La religion, les beaux arts, la science, l'éducation.

II. Moeurs et coutume, les cultes, la législation, la morale.

III. L'économie, la politique, l'organisation sociale.

- § 6. Forces de la civilisation.  
Force de continuation, f. d. croissance, f. d'influence, f. d'expansion.
- § 7. Formules du progrès de la civilisation.
- § 8. But de la civilisation.  
Loi logarithmique de l'Évolution sociale :  
Théorie dynamique de l'Évolution sociale.

**Chap. II.—Vue historique de l'Évolution sociale.**

- § 1. Introduction.
- § 2. Grand aspect de l'Évolution sociale.
- § 3. Développement social du Japon.
- § 4. Développement social de la Chine.
- § 5. Grandeur et décadence des nationalités de l'Asie occidentale et de l'Europe méridionale.
- § 6. Développement social de l'Europe.
- § 7. Développement social des nationalités américaines.
- § 8. Accroissement de la population.
- § 9. Progrès de la communication.
- § 10. La communication universelle.
- § 11. Développement de l'humanité.  
Pre-histoire du monde et l'Histoire universelle.

**Chap. III.—Critique générale de la Civilisation.**

- § 1. Introduction.
- § 2. Les problèmes sociaux.  
Le problème social est le problème direct et universel à l'unité sociale.
- § 3. Plusieurs problèmes sociaux :  
Problèmes économiques ; p. de population ; p. de races ;

p. internationaux ; p. de religion ; p. féministes ; p. criminels ; p. de classes ; p. de pensée ; p. révolutionnaires.

- § 4. Valeur de la civilisation occidentale.
- § 5. Valeur de la civilisation orientale.
- § 6. Conclusion générale.

大正七年十二月十五日印刷  
大正七年十二月二十日發行

定價金參圓八拾錢

不許複製  
社會動學

東京帝國大學教授  
萬國社會學士院正員  
米國政治學社會學士院會員  
文學博士

建部 遜 吾

著作  
發行  
印刷者

金港堂書籍株式會社

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

代表者社長

原 亮 一 郎

印刷所

東洋印刷株式會社  
東京市日本橋區本町三丁目二番地

發 賣 所

東京市日本橋區  
本町三丁目

二番地  
東京八八五

金港堂書籍株式會社

建部遷吾著述目錄

普通社會學	金港堂發行
第一卷 社會學序說	明治三十七年 菊版四〇七頁
第二卷 社會理學	明治三十八年 菊版四七〇頁
第三卷 社會靜學	明治三十九年 菊版五七二頁
第四卷 社會動學	大正七年 菊版六六〇頁
普通社會學綱領	明治三十七年 金港堂菊版三〇頁
社會學戰論	明治三十九年 金港堂菊版三〇頁
陸象山錄	明治三十年 菊版二六〇頁
哲學大觀	明治三十一年 金港堂菊版四〇頁
西遊漫筆	明治三十五年 菊版四三〇頁
外政時言	明治三十六年 菊版一〇六頁

經世時言	明治三十六年 同文館菊版六〇頁
靜觀餘錄	明治四十年 菊版五六〇頁
新興國の青年	大正四年、莫哀社 四六版六一〇頁
戊申詔書衍義	同文館菊版三三〇頁
世界列國の大勢	再縮刷小版三三〇頁
日本帝國の國是	大正三年、自刊 三六版一〇〇頁
教育行政研究	大正三年、金港堂 菊版九九〇頁
宗教に對實理政策	大正三年、日本社會學院、菊版二五〇頁
世界列國の大勢	大正三年、同文館 三六版一〇七〇頁
社會學と教育	大正四年、青英書院 四六版二二〇頁
都會生活と村落生活	大正四年、通俗大學會小版二三〇頁
國語に對實理政策	大正七年、日本社會學院、菊版二五〇頁

47  
128

終

